資料７－３

古賀市水道事業の課題と対策について

平成29年10月
古賀市上下水道事業経営等審議会資料

【目次】

１．水道事業の経営評価
２．懸案事項について
３．課題と対策について
４．審議事項について

１．水道事業の経営評価

【目次】

１－１．　経営評価について

１－１．経営評価について

	現在	短期的展望	中長期的展望
収益	○	○ 給水収益 ↑ 加入金 ↑	△ 給水人口 ↓ 大口需要者からの収入 ↓
費用	○	△ 受水費 ↑ 減価償却費 大 企業債利息 大 職員人件費 大	× 施設更新費用 ↑

【短期的展望】

・給水収益　…　第10期拡張区域の供用開始（H34）などにより微増見込み

・加入金　…　小規模宅地開発が進んでいるため増加見込み

・受水費　…　現在 約3億円/年　⇒　今後 約4億円超

【中長期的展望】

・施設更新費用　…　現在 約1.2億円/年 ⇒ 今後 約2.8億円/年

２．懸案事項について

【目次】

２－１．　古賀市水道事業の懸案事項（１）
受水費の推移
２－２．　古賀市水道事業の懸案事項（２）
世帯あたり人員の推移
平均使用水量（2ヶ月分）の推移（φ13、φ20）
水道料金他市町比較（生活用φ13㎜）
水道料金他市町比較（生活以外φ50㎜）
２－３．　古賀市水道事業の懸案事項（３）
料金配賦による水道料金との比較

２－１．古賀市水道事業の懸案事項（１）

①収益の減少

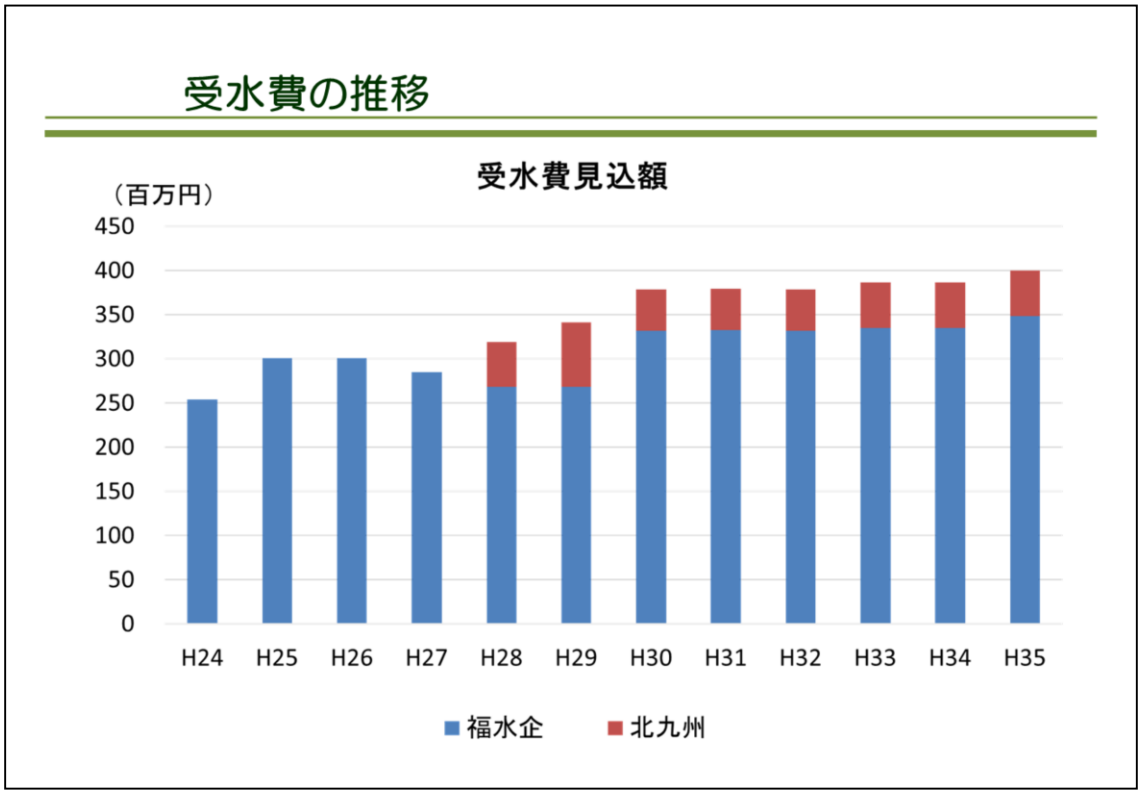
少子高齢化による人口減少
大口需要者の地下水利用
} 使用水量の減少

②費用の増加

配水管や浄水関連施設の老朽化 ⇒ 更新費用の増大
受水量の増加、受水費の減免の終了 ⇒ 受水費の増加

↓

将来、経営状況が悪化する恐れ



平成25年度　　福岡地区水道企業団
受水 ＋2,200㎥/日（大山ダム増量のため）

平成28年度　　北九州市水道用水供給事業
受水開始（協定水量3,000㎥/日に対し、 実受水量は約1,500㎥/日で推移）

平成30年度　　福岡地区水道企業団
受水 ＋500㎥/日（五ケ山ダム増量のため）
大山ダム増量分の受水費の減免終了

平成33年度　　北九州市水道用水供給事業
受水単価の減免終了

平成35年度　　福岡地区水道企業団
五ケ山ダム増量分の受水費の減免終了

２－２．古賀市水道事業の懸案事項（２）

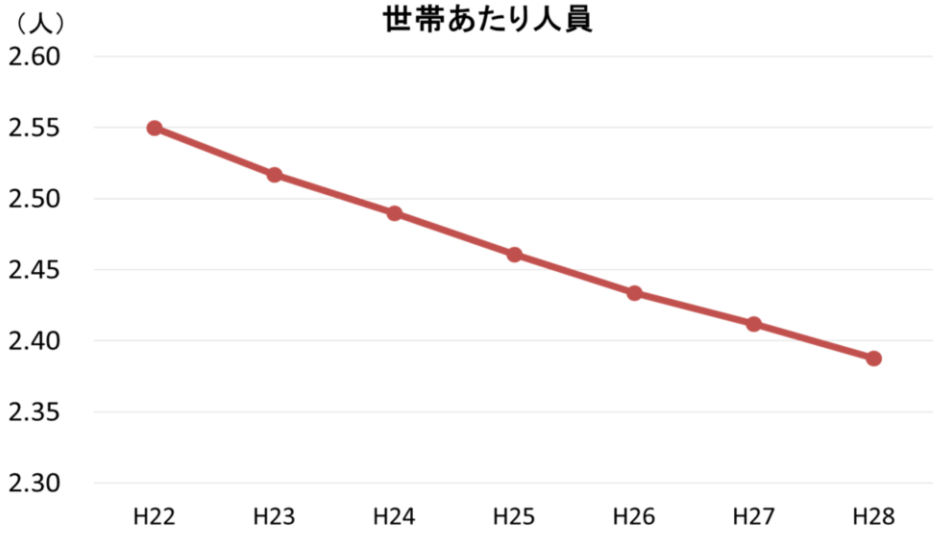
③水道料金に対する利用者の不公平感

・水道料金20年間据え置き

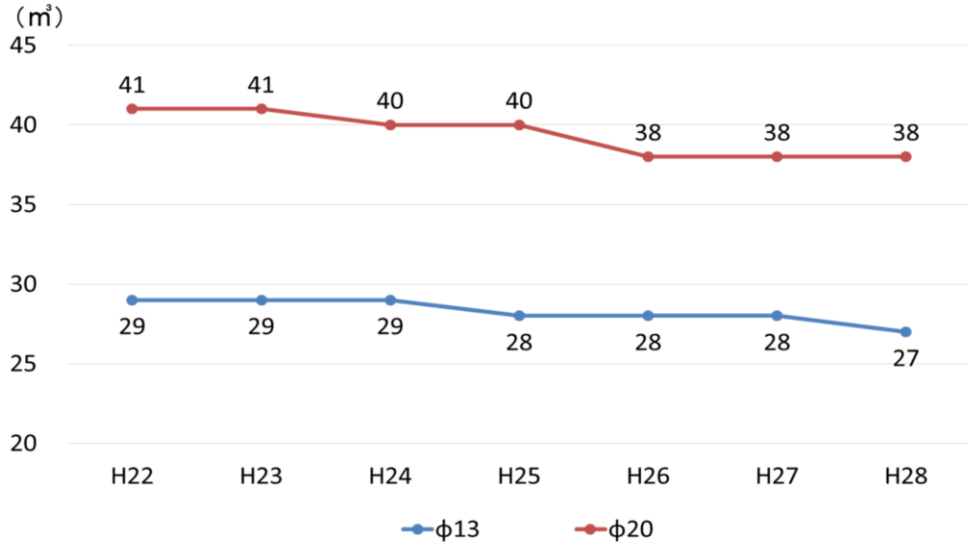
・水需要の構造の変化
（核家族化、節水機器による使用水量の減少）
⇒ 基本水量16㎥設定の問題

・近隣市町と比較して、一般家庭用の料金が高め

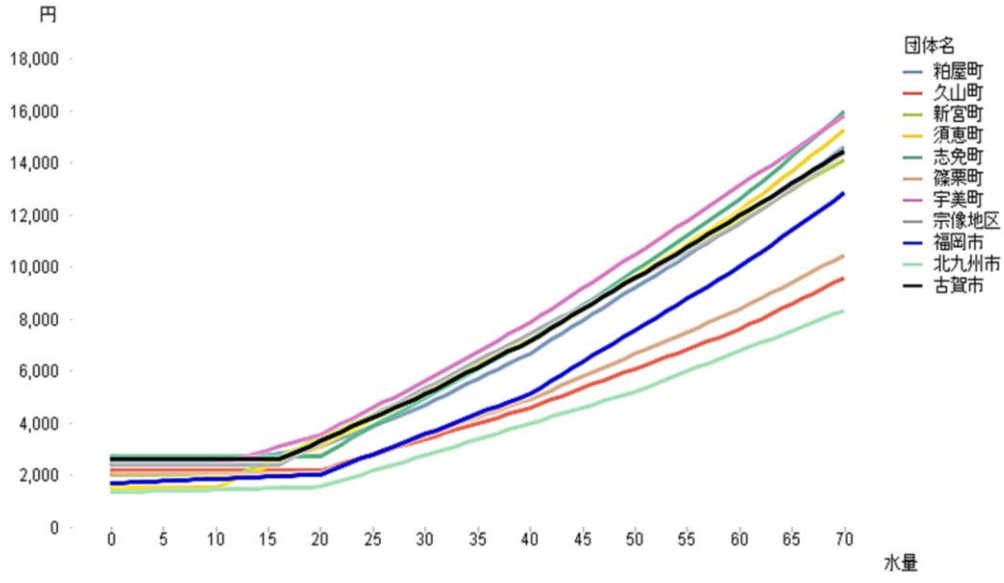
世帯あたり人員の推移


世帯あたり人員
（人）
2.60
2.55
2.50
2.45
2.40
2.35
2.30
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28

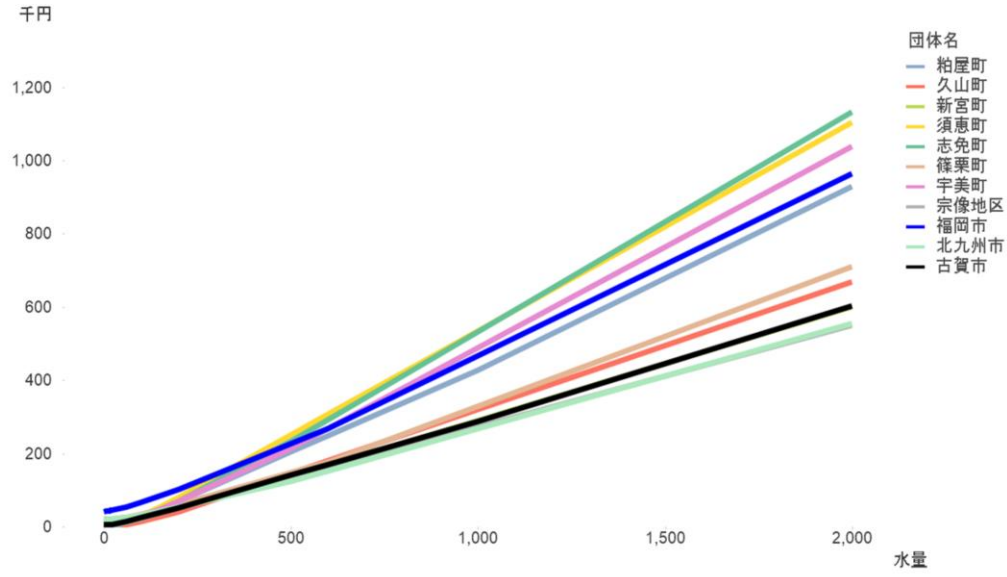
平均使用水量（2ヶ月分）の推移（φ13、φ20）



水道料金他市町比較（生活用φ13mm）



水道料金他市町比較（生活以外φ50mm）



２－３．古賀市水道事業の懸案事項（３）

④費用回収の問題

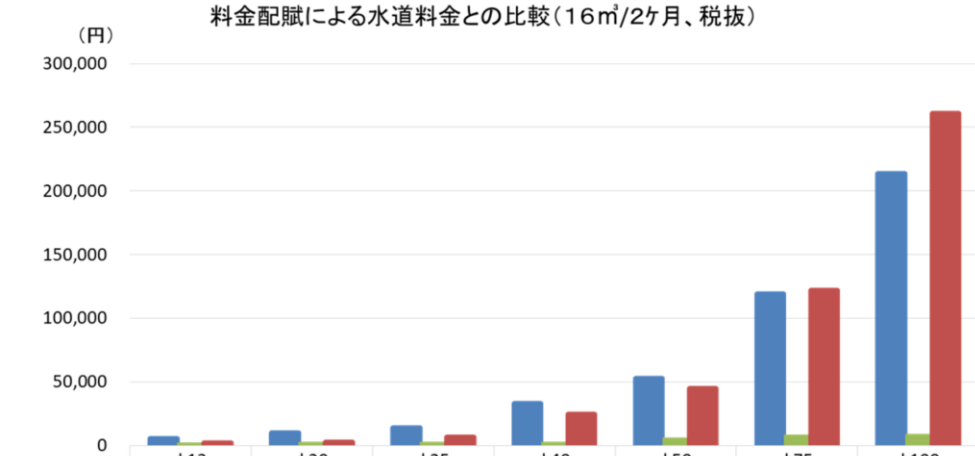
維持管理費は、口径が大きくなるにつれ高くなる
にもかかわらず、

・どの口径も、基本料金は同じ
・バックアップ用に引いているだけで使用していない

⇩

大口径ほど費用回収できていない

料金配賦による水道料金との比較



	φ13	φ20	φ25	φ40	φ50	φ75	φ100
料金配賦	5,656	9,736	13,816	32,916	52,636	119,216	213,656
古賀市現行	2,600	2,700	2,800	3,200	6,400	8,400	9,400
福岡市	1,972	2,932	6,492	24,640	45,000	122,200	261,200

【料金配賦】

日本水道協会が定める「水道料金算定要領」に基づき、水道事業にかかる総費用を各口径別に配分したもの。

（上のグラフは、H28決算ベースで計算）

３．課題と対策について

【目次】

３－１．　課題と対策（１）
３－２．　課題と対策（２）
３－３．　課題と対策（３）
３－４．　課題と対策（４）
３－５．　課題と対策（まとめ）

３－１．課題と対策（１）

課題①　経営や料金体系の定期的見直し

【対策】<u>経営状況が悪化する前に定期的見直しを実施</u>

⇩

・経営審議会を定期的に開催（４年に１度）
・料金算定期間を４年に設定
（今回は平成30～33年度の４年間）

３－２．課題と対策（２）

課題②　収益を維持するための料金体系の見直し

【対策】口径別料金体系の導入

- **用途別料金体系 ⇒ 口径別料金体系へ**
- **口径別の費用に見合った料金負担へ変更**

現行の水道料金表は、第6回審議会資料6-3の9ページに掲載しています。

３－３．課題と対策（３）

課題③　基本水量の見直し

【対策】基本水量（16㎥/2ヶ月）を廃止（0㎥）

・基本料金と水量料金の区分を明確化
・多様な生活環境に合った料金負担とする

３－４．課題と対策（４）

課題④　水道料金の収入バランスの検討

【対策】<u>生活用・生活以外の負担割合を調整</u>

・生活用（小口径）水道料金の負担を低減
・生活以外（大口径）の基本料金を見直し
・近隣市町との料金バランスも併せて考慮

３－５．課題と対策（まとめ）

課題①　経営や料金体系の定期的見直し

課題②　収益を維持するための料金体系の見直し

課題③　基本水量の見直し

課題④　水道料金の収入バランスの検討

４．審議事項について

【目次】

４－１．　諮問事項の審議（１）
４－２．　諮問事項の審議（２）
４－３．　料金体系改定案
４－４．　当年度純利益の見通し
４－５．　近隣市町との比較（生活用φ13㎜）
４－６．　近隣市町との比較（生活以外φ50㎜）

４－１．諮問事項の審議（１）

諮問①　古賀市水道事業の経営について

- 現状は概ね良好だが、将来悪化の可能性
  ⇒その前に見直しが必要
- 審議会を定期的に開催し、経営状況を審査
  （概ね４年に１回）
- 収益を維持（減少させない）

４－２．諮問事項の審議（２）

諮問②　水道料金制度のあり方について

- 口径別料金体系への移行
- 基本水量の廃止（16㎥/2ヶ月 ⇒ 0㎥）
- 生活用（小口径）と生活以外（大口径）の負担割合を調整

４－３．料金体系改定案

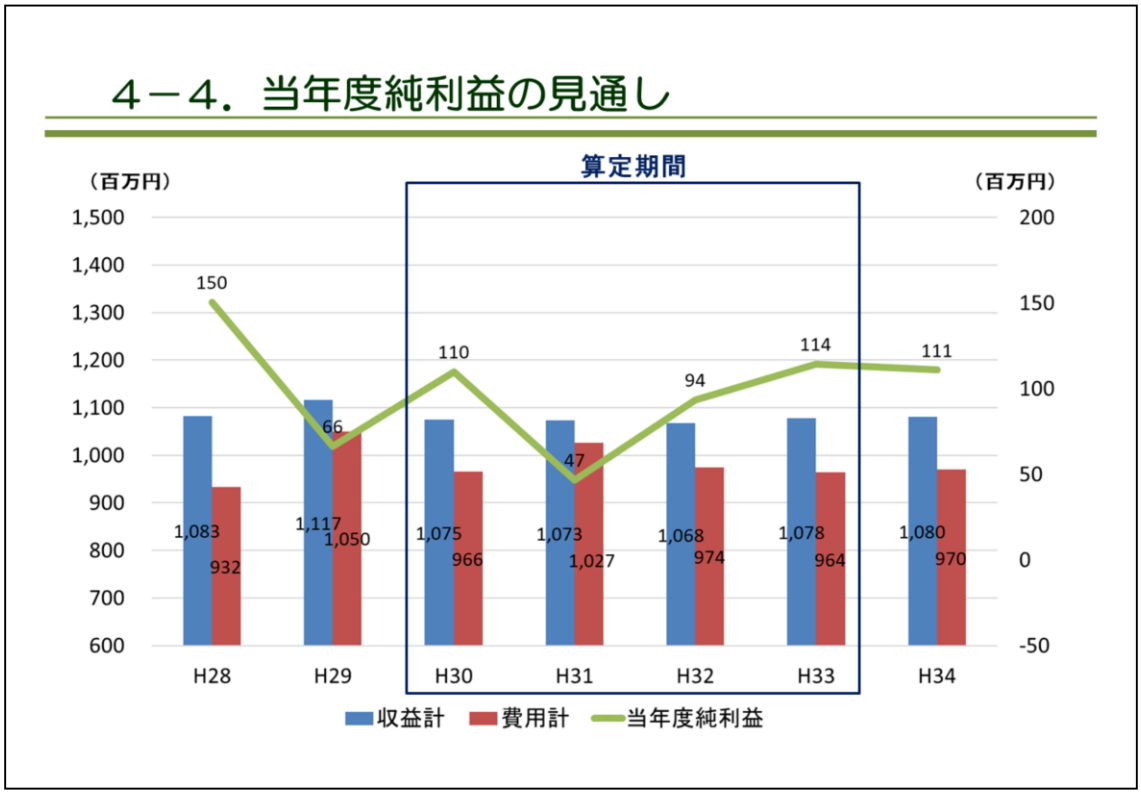
（2ヶ月あたり平均値）

		現行 （H28ﾍﾞｰｽ）	改定案１ 生活用　－5% 生活以外　＋9%	改定案２ 生活用　－7.5% 生活以外　＋14 %	改定案３ 生活用　－10% 生活以外　＋19%
生活用	給水収益（百万円）	608	578	562	547
	1件あたり平均（円）	6,026	5,724	5,574	5,423
生活以外	給水収益（百万円）	327	357	373	388
	1件あたり平均（円）	61,994	67,635	70,673	73,772
給水収益合計（百万円）		935			

【1件あたり平均水量/2ヶ月】

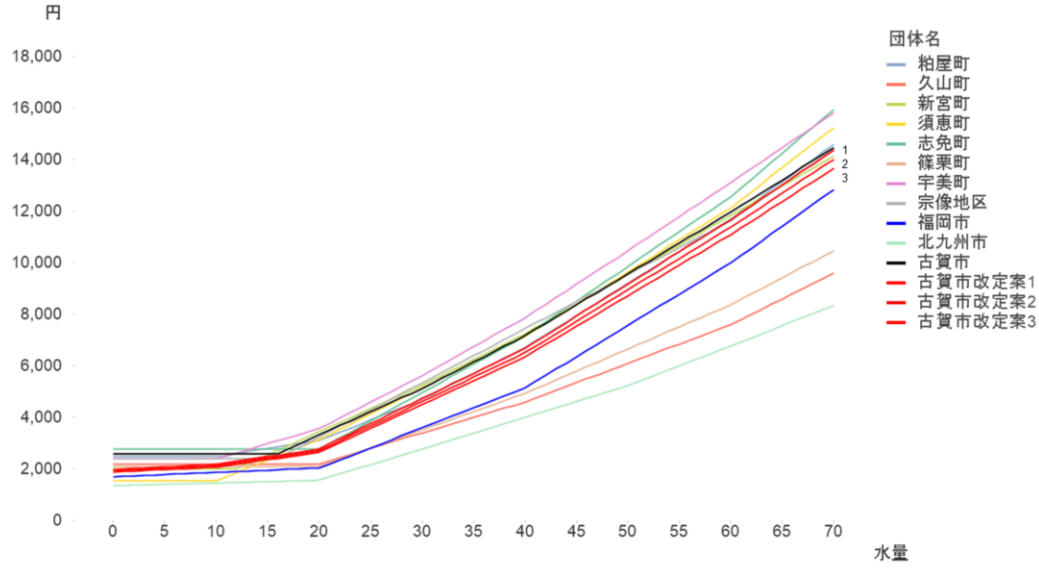
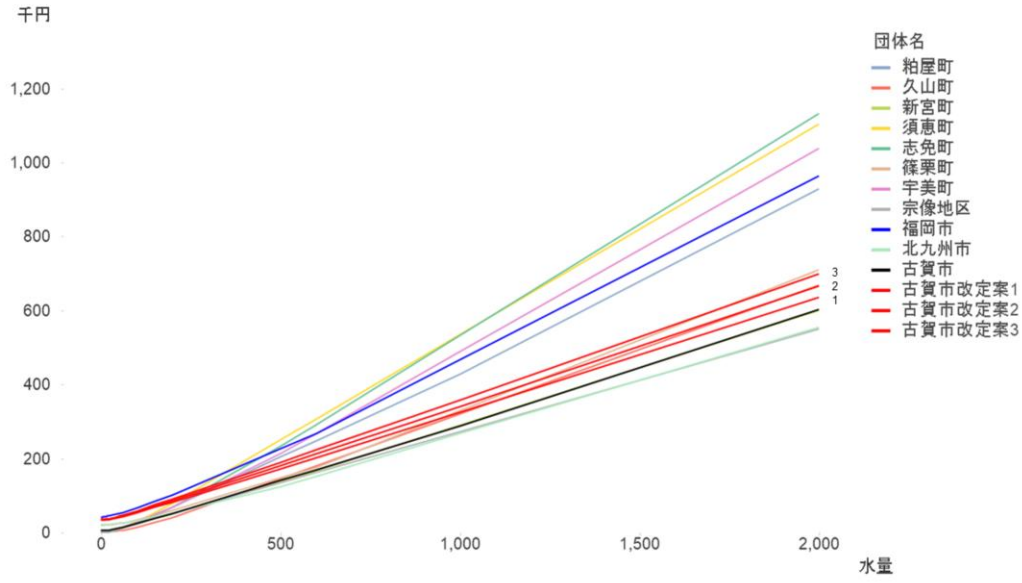
・生活用　　32㎥

・生活以外　215㎥



収益は減少しないので、将来見通しに変化はない。

４－５．近隣市町との比較（生活用φ13mm）



４－６．近隣市町との比較（生活以外φ50mm）